

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	6611	学校名	阿木高等学校
------	------	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する定時制高校として、「わかります。できます。やります。」として実感できるように、きめ細やかな指導や支援を通して、周囲の人と協働し地域に貢献できる人材の育成を目指す学校
------------------------	---

学校教育目標 (教育方針)	「親和・自治・勤労」の校訓を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒を育成するとともに、有為な地域社会人を育成する
------------------	---

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな心と他人を思いやる心を持った生徒 心身ともにたくましく、忍耐力のある生徒 自ら学び、考え、行動する生徒 周囲の人と協働できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 農業もしくは家庭（保育福祉・生活衣食）の専門学習を通じた課題発見力・課題解決力の育成 少人数指導による「わかる授業」の展開、および「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 社会生活に必要な基礎学力を身に付ける「学び直し」授業の推進
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や地域交流などの校外の活動に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 自ら学ぶ態度と基礎的・基本的な学習を身に付けたい生徒 自身も他者に対しても、優しい気持ちと言葉で接することができる生徒

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様な学習ニーズに対応するために実態を把握し「組織的な対応・支援体制・指導形態」を検討し改善する 生徒の自立に向けて最低限必要な生活習慣や能力、基本的な学力や技術を身につけさせる 生徒の適性や進路等に応じて必要となる資質や能力を身につけさせる
----------	--

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	地域社会で自立して生きるために必要な基礎学力の定着と専門学習を通して主体的な学習態度を育成する授業改善を図る
	進路指導	個に応じたキャリア教育の充実を図り、生徒の進路実現を支援する
	生徒指導	教育相談や特別支援教育を充実させ、生徒・保護者に寄り添った支援を工夫する
	教員研修	教員研修を充実させ、全職員が一人ひとりの生徒や保護者に寄り添った指導や支援ができるようにする

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	義務教育段階の学習内容の確実な定着をさせるために、 学び直し科目の充実を図る	施策Ⅳ-23	①生徒による「授業評価アンケート」 ○関係項目のA、B評価80% 以上を目標 ②授業改善のための授業参観の 実施 ○評価指数B段階を目標 ③生徒・保護者による「学校評価 アンケート」 ○「満足」指数80%以上	・基礎力診断テストを実施し診断結果の分析 ・本校職員による、ICT活用研修会の実施 ・生徒との対話を重視した授業の実施 ・2・3年次の認知基礎などの取組	B	○「本時の目標」「まとめ」「ポイント」の プレートを使用することで視覚的に見通しが もてる授業を実施することができた ○生徒の現状に応じた授業展開やシラバス・ 指導計画を改定することができた ●学び直しの内容の精選と自己認知につい て、生徒及び保護者との連携を図る ●学校設定科目における学び直し手法の検討 をする	
	授業改善(ICTの活用)により生徒の意欲・関心を刺激 し、基本的な知識・技能を身に付ける中で、「わかる」 喜びを実感させる	施策Ⅱ-9					
	言語活動を大切にし、表現力、思考力、コミュニケー ション能力等、社会生活(専門科目)に必要な協働する力 を高めさせる	施策Ⅱ-8					
	将来のスペシャリストの育成のために必要な知識や技術 を身に付けるため、地域連携、外部人材の活用や地域資 源を生かした探求活動などを推進させる	施策Ⅱ-14					
進路指導	進路行事を通して、自己の適性や能力、興味関心に合っ た進路選択ができるようにする	施策Ⅱ-13	①進路実現率 ○就職内定率100%を目標 ②キャリアコンサルティング面 談後のアンケート ○進路選択のために有意義な 成果が認められる ③生徒の自己評価アンケート ○「満足」指数80%以上	・キャリアコンサルタントや担任等による面 談や集中面接指導により、自己理解や職業理 解を深める ・キャリアコンサルタントとのカンファレン スで職員の共通理解を図り生徒の指導につな げる ・インターンシップ、ガイダンス、LHR、 進路報告会などによりキャリア教育	B	○卒業年次生の進路決定率は、ほぼ100% となっている ○教員による面接指導やキャリアコンサル タントによる夏季休業中の集中面接指導で、生 徒は自信をもって面接試験に臨むことができ た ●2年生のインターンシップの実習先につい ては、業種や生徒の実態等を考えて検討する 必要がある ●生徒の特性に配慮した進路指導をさらに充 実させる必要がある	
	地域社会と積極的に連携し、思いやりや奉仕の心、行動 力、責任感など社会性の向上に努める	施策Ⅰ-4					
	キャリアコンサルティング面談やインターンシップを通 して自己理解を深め、個に応じた進路選択を支援する	施策Ⅱ-14					
	各教科や学校行事、実習等の体験を通して、自己理解を 深め、自信をもって社会に出られるようにする	施策Ⅰ-1					
生徒指導	生徒・保護者との信頼関係を構築し、安心・安全な学校 生活を送れるよう丁寧な支援を心掛ける	施策Ⅰ-3	①生徒・保護者による「学校評価 アンケート」 ○関係項目のA、B評価80%以 上を目標 ②教育相談、三者懇談での開取り ○学校生活の満足度を判定基準 とする ③個別の教育支援計画、個別指導 カルテの活用 ○個に応じた支援・指導を行え たかを判断	・全校集会等での生徒指導講話の実施 ・全校生徒を対象とした、SOSの出し方 に関する講話や外部講師を招いて情報モラル講 話を実施 ・SCによるカウンセリングと情報共有、職 員会議での生徒情報共有を実施	A	○全校集会の生徒指導講話ではエピソードト ークを活用しながら、時事問題や学校生活にお ける問題を自分事として考えさせるきっかけと することができた ○20日以上欠席者数が、昨年同時期と比較 して半減(20人→9人)しており、学年と連 携して登校支援をしている成果をだすことが できた ●情報モラル講話を早期に実施したが、その 直後に1年生で情報モラル違反が発覚 今後、実施時期や回数について検討が必要	B
	日々の学校生活や各種行事や特別活動を通じて、社会性 や適切な人間関係を身に付けさせる	施策Ⅰ-1					
	地域連携や専門学科の学習・体験を通して、自己肯定 感、自己効力感や自己有用感を高める支援を行う	施策Ⅳ-20					
	共感的な指導、人権に配慮した指導を実践するととも に、問題行動等の未然防止、早期発見や早期対応を図る	施策Ⅲ-19					
教員研修	研修主事による職員の資質向上を図る研修を積極的に実 施する	施策Ⅳ-26	①各職員の研修受講状況 ②時間外勤務状況や年次 休暇等の取得状況 ③学校評価アンケートや 学校運営協議会等から の意見	・外部講師やキャリアコンサルタント等によ る資質向上を図る研修を実施 ・年間を通して、服務規程の順守に関する研 修や、労働環境等の改善を実施 ・多様な生徒の指導や支援を行うため、校内 はもちろんのこと外部機関とも連携し対応	B	○職員の資質向上を図るため、外部講師を招 き、良好な人間関係を築く言葉かけ等につい て研修した ○多様な生徒(障がいのある生徒等)に対 してより適切な支援が行えるように、恵那特 別支援学校の先生を講師に招き研修会を実施 した ●職員がより働きやすい環境や人間関係を 築けるように、広く職員の意見を聞き改善 する ●多様な生徒の指導や支援を行うため、外 部(小中学校)での研修(授業方法等)を実 施する	
	特別支援コーディネーターを中心とした、生徒情報交換 会を定期的に行い職員間の共通理解を図り、多様な生徒 に対応した研修会を実施する	施策Ⅳ-21					
	生徒の多様で複雑なニーズを理解し、適切な支援に繋げ ていくために、保護者や家庭、外部機関や専門家との連 携を強化する	施策Ⅳ-20					
	職員の服務規定や適正な勤務や効率化、心のケアに関す る研修等を実施し、教職員が生き生きと働くことので きる環境を整える	施策Ⅳ-27					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月27日 学校関係者評価

実施日：令和8年1月27日

- ・基礎力診断テスト等の教材を活用した生徒の学習に取り組む機会の工夫を進める。
- ・タブレット等の情報機器を活用した授業の充実を図れるようにする。
- ・配慮が必要な生徒の進路支援に、より早い段階から保護者と連携して支援していく。また、教育相談とも連携して実施していく。
- ・外部機関に依頼する情報モラル講話を早期に実施するとともに、日頃からLHRや教科の授業内においても話題にしてモラル向上に努める。
- ・継続して服務規定や適正な勤務や効率化の研修等を実施し、教職員が生き生きと働くことができる環境を整えていく。

- ・職員の支援や指導により、生徒が成長する姿を見られたことに大変良い感想を頂けた。
- ・少人数教育を実践した取組や多様な生徒に対する職員の丁寧な支援・指導に、大変良い意見や感想を頂けた。
- ・今後より一層安心して登校できる学校や居場所となるように、保護者や外部機関と連携をして取り組んでいくとよい。
- ・地域連携を通じた取組と、教員による支援や積み重ねによる生徒の成長という観点からの意見が多かった。